

台風20号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成30年8月21日
福井県農業総合指導推進会議

○強風対策

- ・ハウスが飛ばされないようハウズバンドを確認する。
- ・ナシは、収穫可能なものはできる限り収穫し、果実の落果防止のため、棚の「あおり止め」を点検する。
- ・水稻「コシヒカリ」・「あきさかり」・「いちほまれ」は、強風や台風通過後のフェーンによる登熟不良を避けるため湛水管理にする。

○大雨対策

- ・大豆、ソバ、野菜の圃場の周囲や排水溝を掘り直す。

1 共通事項

- ・人命第一の観点から、大雨・強風の中での圃場の見回りはしない。
- ・大雨や強風がおさまった後でも、増水した河川や水路等の危険な場所には近づかない。
- ・排水溝を掘り直す。特に、冠水や浸水しやすい圃場は、重点的に排水対策を実施する。

2 園芸施設等

- ・雨水がハウス内に侵入しないよう排水溝を点検する。
- ・ハウスの浮き上がりを防ぐため、パイプの基礎部の土を締め固める。特に、新設ハウスは被害を受けやすいのでアンカー増設等の対策を行う。
- ・ハウズバンドを締め直し、被覆材の破損部の補修や筋かいの補強を行う。
- ・周囲に防風ネットが設置してある場合は、点検、補強を行う。
- ・ハウス等の周囲はよく整理し、風に飛ばされやすいものは片づけておく
- ・風が強くなってきたら天窓、サイドビニール、入口を閉める。換気扇がある場合は、稼働させてハウス内を負圧にする。

<通過後>

- ・浸水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、速やかに排水する。
- ・風の心配が無くなったら、ハウスのサイドや天窓を開けて換気に努める。
- ・マルチ栽培をしている畝が冠水した場合は、中が水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩までめくり上げ、土を乾かす。
- ・土壌表面が固くしまった場合は、軽く中耕し、表土の通気をよくする。

3 水稻

- ・収穫時期の「ハナエチゼン」では、排水する。
- ・「コシヒカリ」・「いちほまれ」では、強風による稲株の損傷を避けるため湛水管理を徹底する。

<通過後>

- ・収穫時期のハナエチゼンでは、大雨で溜まった水を速やかに排水する。
- ・強風やフェーンの影響があるうちは湛水を保ち、影響がなくなったら以後の水管理は間断通水とする。

4 大豆・ソバ

- ・排水溝や落水口を確認し、手直しを行う。
- ・大豆圃場では、枕地の培土が排水を妨げないよう、畝を切り通しておく。

<通過後>

- ・圃場の停滞水を早急に排水する。

5 野菜(露地)

- ・ピーマン、ナスなど果菜類は、果実を若穫りしておくとともに、不良果や不良な茎葉はとり除き、株の負担を少なくして、草勢の低下を防ぐ。
- ・キャベツ、ブロッコリーは、浸水すると根腐れなどを起こすので、排水溝を手直しする。浸水した場合は、24時間以内の排水を徹底する。
- ・ネギは、収穫直前のもののみ土寄せ等を行い、株のゆれを防ぐ。

<通過後>

- ・茎や葉が傷ついた場合、細菌病が発生し易くなるので被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。併せて、茎葉に付着した泥等を洗い流す。
- ・果菜類で支柱等が倒れているものは速やかに引き起こす。また、傷ついた果実は摘果する。
- ・草勢を回復するため、液肥の葉面散布や追肥を行う。
- ・土壌表面が固まった場合は、軽く中耕して土壌中に酸素を供給し、根張りの回復を図る。
- ・根元が露出している場合は、軽く土寄せを行う。

6 果樹

- ・ナシの収穫可能なものはできる限り収穫する。
- ・ナシ等の棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」の点検を行うとともに、枝を棚に誘引・結束しておく。
- ・枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の設置、点検、補強を行う。

<通過後>

- ・倒木した場合は速やかに立て直し、支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。
- ・傷果等が発生した場合は摘果を徹底する。

7 花き

- ・畝の両端の親支柱や中間支柱はしっかり打ち直し、中間にタルキグイを入れて補強する。
- ・畝の横風対策として、通路をまたぐように隣の畝の支柱どうしをハウスバンドで連結して固定する。
- ・フラワーネットは花の先端から3分の1程度下がったところで支持する。
- ・冠水しないように、排水溝を手直しする。

<通過後>

- ・茎や葉が傷つくと、病害が発生するので、病害防除を徹底する。
- ・強風により傾いた場合は、長時間そのままにしておくとも曲がったまま元に戻らなくなるので、速やかに起こす。

8 畜産

- ・施設の損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。
- ・施設や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。
- ・放牧地においては、牧柵等の破損、土砂崩れ等の発生する危険がある場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

<通過後>

- ・畜舎等が浸水した場合は、すぐに排水し、疾病予防のため洗浄・消毒し、乾燥に努める。